



「政策体系等」のブラッシュアップを通じた 俯瞰的な状況把握、施策の改善等について

令和6年10月2日

大臣官房政策課

1. 「政策体系等」のブラッシュアップについて

- 令和5年度は、政策体系等（※）の充実・活用に係る試行を行うとともに、政策分野ごとに最も適切な政策体系等のブラッシュアップ方針、事後評価の実施方法について検討し、方向性を取りまとめた。

（※）政策体系等とは、政策－施策－事務事業として整理される政策の階層構造（政策体系等）に、施策と事務事業をつなぐ達成目標・測定指標等を追加したもの。

- 令和6年度は、当該方向性、令和5年度の政策体系等の試行的作成等で得られた知見や有識者委員からいただいた御意見等を踏まえて、政策体系等の更なるブラッシュアップを実施。

- 特に、個別施策の改善等、政策体系等の更新作業をより有効なものとする観点から、以下の点に留意してブラッシュアップを実施。

- ① 政策の階層構造（政策目標・施策目標・達成目標・達成手段）を改めて整理する契機とすること。
- ② 当該階層構造を踏まえて、施策レベルの改善に生かす観点から、達成目標・測定指標が適切に設定されているかを再確認し、必要な場合は修正すること。
- ③ 併せて、昨年度の政策評価に関する有識者会議委員の意見等が適切に反映されているかを確認し、必要な修正をすること。
- ④ 測定指標の実績値を更新し、施策レベルの改善の要否を検討すること。

- 各政策分野のブラッシュアップについては、次ページに記載のとおり。

2-1. 教育分野におけるブラッシュアップ

1. ブラッシュアップを通じた主な改善事項

【達成目標】

- 達成目標が文部科学省の行動計画になっている、達成手段が達成目標に入り込んでいるといった点を改善すべく記載を具体化・適正化

【測定指標】

- 達成目標から想定される指標を追加
- 達成目標を多角的に評価する観点から、量的指標に加え、質的指標についても可能な限り達成すべき水準とともに記載
- 新たな項目として出典を明記

【ロジック】

- 達成目標・測定指標・達成手段の関係性を、施策の必要性や重要性をもとに再整理
- 特に、達成手段の詳述にとどまる記載を改め、達成手段が達成目標の達成にどうつながるのかを改めて整理

2. 今後の課題等

【達成目標】

- 目的は何かという観点を踏まえつつ、基本計画とのつながりや時勢を踏まえたアップデートに留意

【測定指標】

- 達成目標の進捗を把握・管理できるものとなっているか、課題の解消に役立つ指標となっているかなどの観点から継続的に検証が必要
- 測定指標によって政策が方向づけられることがないよう留意

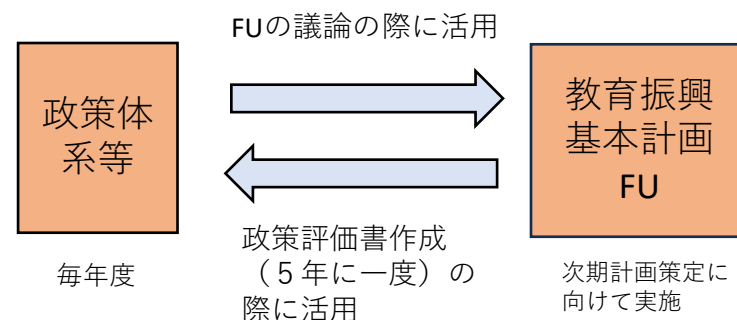
【ロジック】

- 達成手段が達成目標の達成に貢献するものとなっているか進捗に応じて継続的に検討が必要

(参考) 政策体系等と基本計画等との関係

3. スケジュール（見込み）

- 毎年度 政策体系等の更新
- 令和7～8年頃 第4期教育振興基本計画FUの実施
⇒教育分野の政策評価書作成
※現行基本計画の対象期間は令和5～9年度であるため、政策評価書の作成は5年に一度を想定
- 以降、FUを踏まえて次期基本計画に係る議論
- 令和10年度 第5期教育振興基本計画策定



2-2. 科学技術分野におけるブラッシュアップ

1. ブラッシュアップを通じた主な改善事項

【達成目標】

- 達成目標が行動目標ではなく、政策介入した結果としてターゲットがどう変わるのかという観点から、アウトカム表現に統一
- 政策の階層構造を改めて整理し、達成目標が本来その下に位置付けられるべき達成手段（＝取組）になっている箇所について適正化

【測定指標】

- 個別の事務事業レベルの指標となっている箇所を改め、施策に係る指標の設定に改善
- 個別の状況に応じて定性的な指標を設定
- 達成目標に対応した指標を追加
- 新たな項目として出典を追加

【ロジック】

- 事業等手段の内容に係る記載を改め、達成手段が達成目標の達成にどうつながるのかを、具体的な記載も意識して整理

2. 今後の課題等

【達成目標】

- 分野横断や分野間の連動についても念頭に置く必要

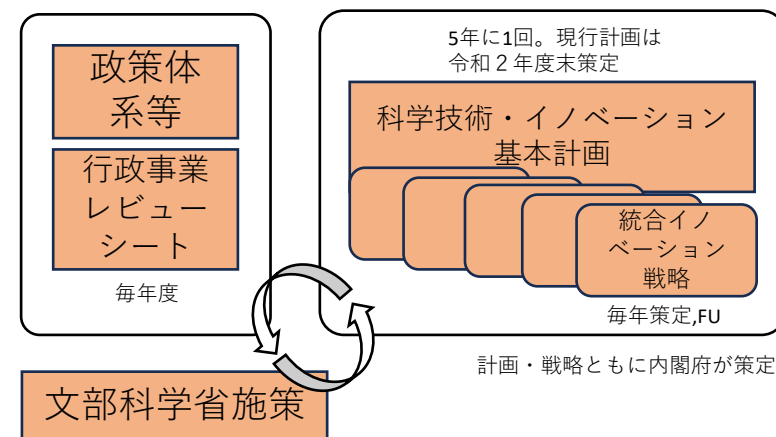
【測定指標】

- 単なる事業のアウトプットではなく、達成目標の進捗を測るものとなっているか留意が必要
- 定性的な指標を用いる場合には、その定性的な現状値にいたる根拠を示すことが必要

【ロジック】

- 達成手段が達成目標の達成に貢献するものとなっているか進捗に応じて継続的に検討が必要

（参考）政策体系等と基本計画等との関係



3. スケジュール（見込み）

※策定主体は内閣府

- 毎年度 政策体系等の更新
- 令和6年中 次期科学技術・イノベーション基本計画※に係る検討を開始
- 令和7年度 令和7年度統合イノベーション戦略策定※
- 令和7年度末 第6期科学技術・イノベーション基本計画期間終了

2-3. スポーツ分野におけるブラッシュアップ

1. ブラッシュアップを通じた主な改善事項

【全体】

- 達成目標の中から特に優先的に評価を行う項目を抽出し、メリハリ付けを行って実施

【達成目標】

- 必要に応じて、定量的・定性的な目標や具体的な目標を設定

【測定指標】

- 達成目標に対応した新たな指標を追加
- 個別の状況に応じて定性的な指標を設定
- 新たな項目として出典を追加

【ロジック】

- 達成手段が達成目標の達成にどのように貢献するかについて、具体化を含めて改めて整理

3. スケジュール（見込み）

- 毎年度 政策体系等の更新
- 令和6年度中 第3期基本計画中間FU
- 令和8年度中 第3期基本計画FU
⇒スポーツ分野の政策評価書作成
⇒次期基本計画に係る議論
- 令和8年度末 第4期スポーツ基本計画策定

2. 今後の課題等

【達成目標】

- 政策体系等による進捗管理とスポーツ基本計画のFUの内容を連動させるため、相互の繋がりを踏まえたアップデートに留意

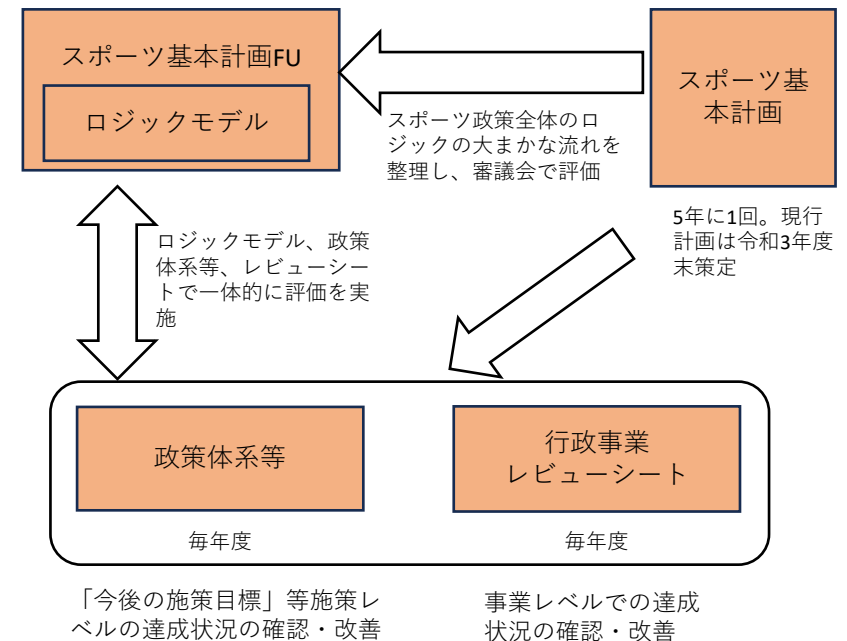
【測定指標】

- 定量のみでは評価しきれない場合に、質的なエビデンスを取り込むことで補強することについて引き続き検討
- 達成目標の進捗を測る観点から、必要に応じてリーチの短い指標の設定についても要検討

【ロジック】

- 達成手段が達成目標の達成に貢献するものとなっているか進捗に応じて継続的に検討が必要

（参考）政策体系等と基本計画等との関係



2-4. 文化芸術分野におけるブラッシュアップ

1. ブラッシュアップを通じた主な改善事項

【全体】

- 「第2期基本計画の指標の検討のための有識者会議」における議論を踏まえ、政策体系等と文化芸術推進基本計画の評価とを連動させる観点から、「（いつまでに）何をどれくらいの状態にする」ということを測定指標で評価・モニタリングし、それにより達成目標の評価を行うことを企図

【測定指標】

- 達成目標を多角的に評価する観点から、量的指標に加え、質的指標についても記載
- 新たな項目として出典を追加

【ロジック】

- 達成手段が達成目標の達成にどのように貢献するかについて、具体化を含めて改めて整理

3. スケジュール（見込み）

- 毎年度 政策体系等の更新
- 令和8年度 第2期基本計画の中間評価
⇒文化芸術分野の政策評価書作成
- 令和8～9年度 次期基本計画に係る議論
- 令和9年度末 第3期文化芸術推進基本計画策定

2. 今後の課題等

【達成目標】

- 政策体系等と文化芸術推進基本計画の評価との連動を念頭に置き、相互の繋がりを踏まえたアップデートに留意

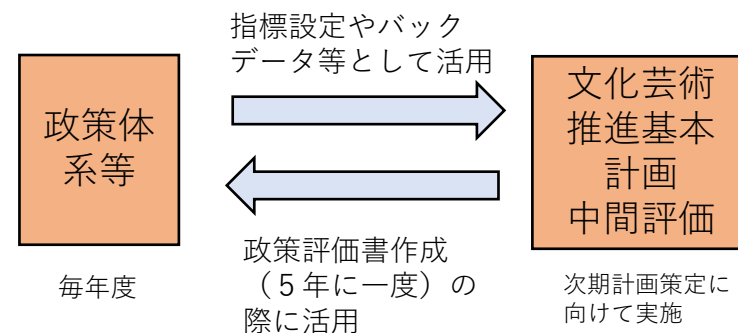
【測定指標】

- 基本計画・各事業の進捗を踏まえて、事業の有効性を測る観点と達成目標を測る観点を結び付け、達成目標の進捗を把握・管理できるものとする必要
- 定性的な指標について、当該指標を達成したかどうかを把握できるようにする必要がある点に留意

【ロジック／その他】

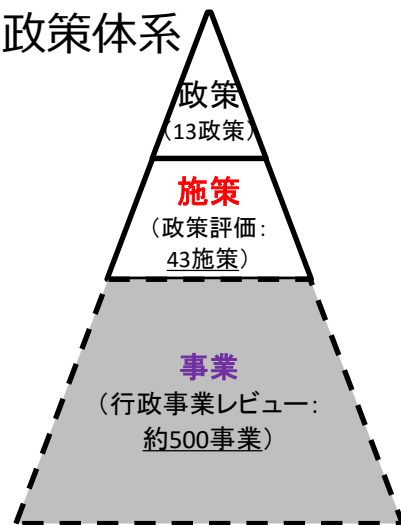
- 各事業の進捗も踏まえ、達成手段が達成目標の達成にどのように貢献するか、具体化が必要

（参考）政策体系等と基本計画等との関係



(参考) 文部科学省の対応について

政策体系



令和5年4月から、

【政策評価】

○画一的網羅的だった評価から、実際の政策の立案プロセスに合わせた評価へ。
時期・方法・対象は各省の判断に委ねられる。

⇒作業負担を減らしつつ、政策評価の実効性を向上。

【行政事業レビュー】

○ロジックモデル的要素を充実させ、予算編成プロセスのプラットフォームへ。

アクティビティ	アウトプット	短期アウトカム	中期アウトカム	長期アウトカム
---------	--------	---------	----------------	---------

⇒事業の上位の目的との整理が必要。

【政策評価の新制度】

☆政策体系（作成必須）

- ・達成目標・測定指標を充実させて、事業・施策・政策のつながりを再整理。
- ・政策立案プロセスで行われる政策・施策レベルの評価（例：各種基本計画のフォローアップ等）、レビューとの接続を強化。【毎年実施】

☆評価書（適切な資料で代替可能）

- ・「実際の政策立案プロセスに合わせる」考え方を踏まえ、各種基本計画フォローアップ資料等を活用するなど、**政策分野ごとに最も適切な方法を判断**。

【行政事業レビューの新制度】

☆EBPMの取組

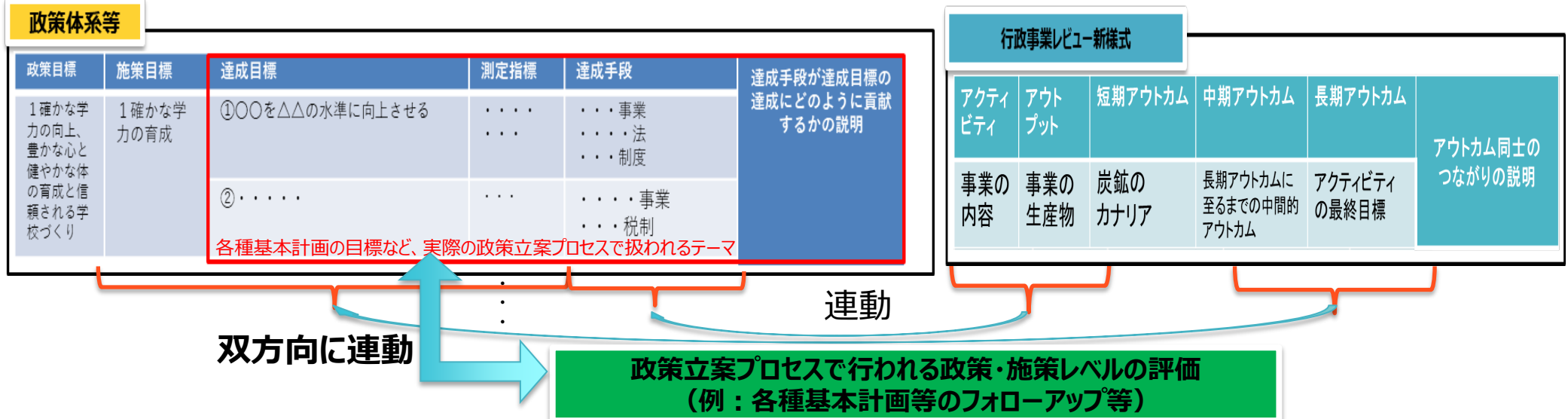
- ・全事業のレビューシートにEBPMの手法を適用し、政策体系等とより連動させることで、効果的な事業の立案・実行・評価・改善を図るとともに、これを予算編成プロセスで活用。

(参考) 政策評価の見直しについて

①政策体系の充実・活用

- ・ 施策レベルのマクロな視点からロジックを整理し、政策効果の発現経路を明確にして、効果の把握・分析を強化。政策の全体像の整理とモニタリング機能も発揮。
- ・ 事業レベルでの評価（行政事業レビュー）と政策・施策レベルでの評価（例：各種基本計画フォローアップ等）との連動性を高め、一貫した評価・改善のサイクルを実現。

⇒結果を意思決定過程で活用。戦略的でメリハリのついた政策の検討に活かす。



②政策評価書作成作業の省力化

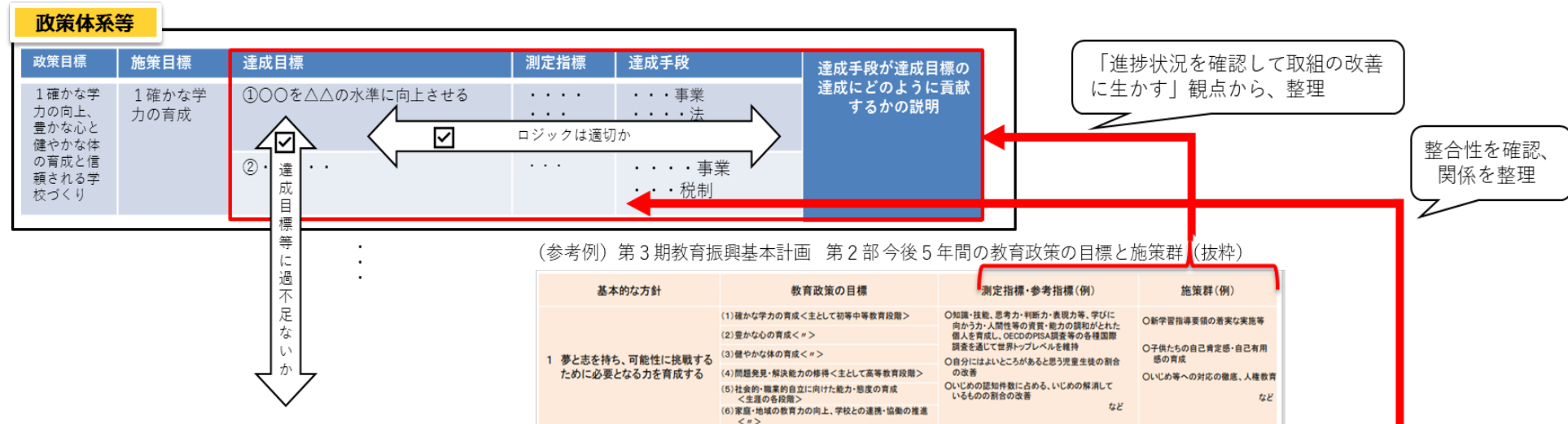
- ・ これまで作成していた事前分析表・事後評価書に代わり、政策立案プロセスで作成された資料（例：基本計画フォローアップ資料等）等を活用※。
 - ・ 具体的な代替方法や時期は、新行政事業レビューや総務省の政策評価手法研究の動向を踏まえつつ、各分野毎に選択。
- ※政策評価法上盛り込むべき事項は適宜追加資料で補足。

③政策評価・EBPMのノウハウを実際の政策立案プロセスへ浸透

- ・ 各種マニュアル・研修を充実させ、幅広く職員の意識改革を促す。

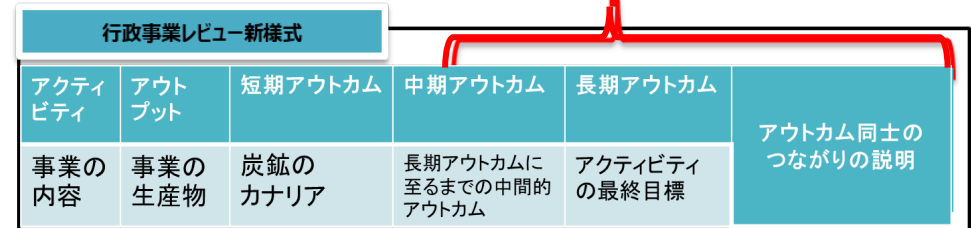
(参考) 政策体系等の充実・活用に係る具体的な作業イメージ

STEP 1 各種基本計画等の目標に合わせて、①達成目標（いつまでに、何について、どのようなことを実現するのか）、②測定指標、③達成手段（達成目標を達成するために必要な主な事務事業）を書き出し、ロジック等を改めて整理。



STEP 2 行政事業レビューシートを作成し、中長期アウトカムと達成目標との整合性を確認し、関係を整理。

STEP 3 状況の変化に合わせて柔軟に達成目標・測定指標を調整。



STEP 4 政策体系等を整理していく上で明らかになった論点を、政策立案プロセスにフィードバック。

（例）・各種基本計画等を改定するタイミングで、現行計画と最新の政策体系等とのずれを踏まえて、各担当部局で検討し、各種基本計画改定等に活かす／・新規事業等の検討に活かす 等

【記載の基本的な考え方】

○達成目標：原則、施策を実現するために達成すべきアウトカム目標を記載。（いつまでに）何をどれくらいの状態にするという形で記載するよう努める（包括的な達成目標と具体的な目標を表現する測定指標という組み合わせも可）。

○測定指標：達成目標の達成状況・進捗状況を具体的に表すアウトカム指標を設定（施策の内容に応じて適切な場合は、アウトプット指標の設定も可）。原則として定量的な指標を設定するが、数値化することが困難な場合は、ロジカルに説明できる定性的な指標を設定する（定性的な指標とする場合は、達成すべき水準を具体的に特定し、達成したかどうか把握できる内容とすること。）。

○測定指標の実績値：当該指標の計画期間の年度ごとの実績値を記入。教育と文化芸術は本年度から計画期間が開始するため空欄。

○達成手段：各達成目標を実現するために実施している活動（予算（事業）、税制、法令、通知、研修、説明会、協議会、マニュアル等の作成など）。

○達成手段が達成目標の達成にどのように貢献するか：ロジックの整理の観点から記載。

(参考) 政策評価に関する有識者会議と各種審議会等との役割分担について

